

## 明石市議会議員 井藤圭順 レポート



## 人づくりのまち 明石をめざして

## ごあいさつ



平素は井藤圭順の議員活動と後援会活動にご理解・ご協力を賜り誠にありがとうございます。依然として世界中で猛威を振るう新型コロナウィルスですが、明石市内においても感染の勢いはとどまる所を知らない状況です。くれぐれも不要の外出を控え、今しばらくの我慢をお願いいたします。さて、今回は明石市コミセンの今後の役割と待機児童対策を含めた子ども・子育て支援事業の2点について質しました。

## 中学校コミュニティセンターについて

コミュニティセンターことコミセンの歴史は昭和46年より中学校の体育館・グラウンド・プール等の体育施設を活用し、住民のスポーツ広場としてコミュニティスポーツセンターを設立されました。翌年にはスポーツ広場に住民の文化活動や集会活動が出来るコミュニティセンター構想へと発展することとなりました。同年に大蔵コミセンの開設に始まり、昭和63年度の大久保北コミセンの開設まで市内13中学校区すべて年時に開設されて来ることをご存じでしょうか。

地域住民からは生涯学習の活動の場、地域コミュニティの活動の推進の場として中学校区だけでなく小学校区にも昭和56年から平成16年にかけて、全28小学校区に開設をしました。

このように独自のコミセン文化を持つ明石市は平成18年の共同のまちづくり宣言において“中学校区コミセンは地域の身近なまちづくりの場”として市民だけでなく、市民と市の共同のまちづくりを進めるための拠点施設になりました。また、“中学校区コミセンは生涯学習活動を中心とした地域住民の親睦の交流の場”としたまちづくりに貢献するための拠点施設となり小学校区のコミセンの役割と機能を分担されてきました。



## 質問 (1) コミセンエリアマネージャについて

中学校区コミセンでは令和元年度よりカリキュラムの充実を図り、より効率的な運営をめざしたモデル事業として大蔵コミセン、錦城コミセンの両センターの所長を一元化しエリアマネージャとして兼務で配置しました。令和2年度からは朝霧コミセンでもエリアマネージャが単独で配置され現在に至っています。しかしコミセンの兼務に関しては地域住民の方々から不満の声も聞いています。そこで、このモデル事業について今後の中学校区コミセンの方向性と市内で混在している所長およびエリアマネージャをどのように考えているか市の見解を聞きました。



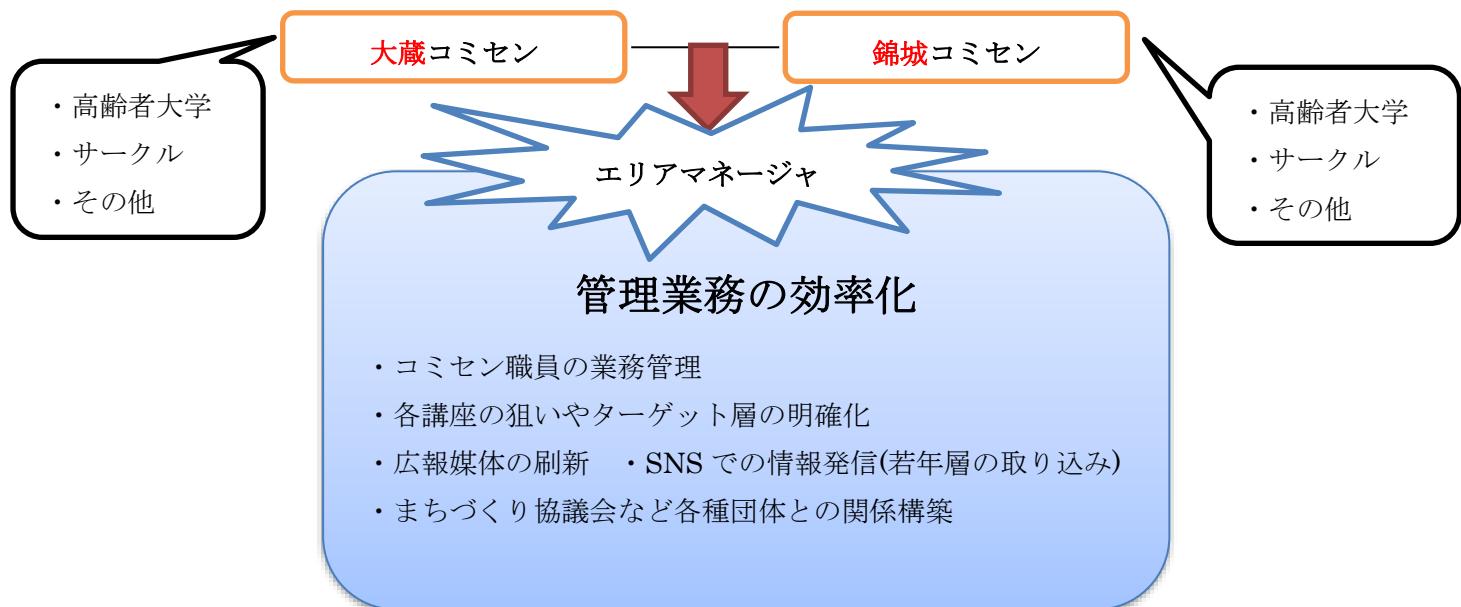
答弁

市民生活局長

近年中学校コミセンに対して様々な意見を頂いています。主な物としては以下の通りです。

- |   |
|---|
| 講座の大半が高齢者大学で高齢者の居場所になっている                 |
| 市民の活動や能力の幅を広げる機能や多様な市民の交流を促すといった機能が低下している |
| 特定のサークルが自分たちのサークル活動に利用するだけとなっている          |
| 交流による広がりがなく新たな価値を生み出しにくい状況となっている          |
| コミュニティや集団への参画をする機能が希薄化している                |

これらの状況に対応するため、令和元年度から中学校コミセン運営体制見直しモデル事業を実施しました。



今年度は新たに朝霧コミセンを所長に変えエリアマネージャを1人配置し同様の取り組みを進めていきます。モデル事業の成果としては効率化が功を奏して新たな市民層の取り込みにつながったことや、学習者が地域活動へ参画するきっかけが作られました。

しかしながら、学習者と各種団体との活動面での連携を十分にコーディネートするためには **1つの中学校エリアに1人のエリアマネージャの配置** がより効率的で効果的だとモデル事業を通して見えてきました。そこで今後の配置としては、来年度から1つの中学校コミセンにつき1人の配置をすべての中学校コミセンで実施したいと考えています。

### 子ども・子育て支援事業について



質問 (1) 放課後児童クラブの受け入れ体制について

明石放課後児童クラブは一般財団法人あかしこども財団が運営する市内の全小学校区において、小学生の保護者が昼間家庭にいない児童に対して専門の支援員が放課後等に適切な遊びや生活の場を提供しています。近年の待機児童対策の効果もあり、就学してからの希望者の増加に伴い多数のクラブで受け入れ枠が拡充され、受け入れる教室の問題が表面化しています。

特に利用者が一番多いのは人丸児童クラブで217名が利用しています。人丸小学校は平成25年時

点の児童数は 782 名で、令和 2 年 4 月で 892 名が在校しており、そして来年は 900 名を超える予想となっています。この緊急事態に対して人丸小学校ではグラウンド以外の敷地に余裕があったため、新たに小学校の教室と児童クラブのプレハブ教室が整備されることになりました。

(令和 3 年 2 月時点建設工事中)



第 2 期明石市子ども子育て支援事業計画の令和 6 年度までの予想値では市内の大半の児童クラブでは増加の試算が出ています。市内全域の児童クラブもこのたびの人丸小学校のように空いている有効な土地がある場合はプレハブ教室の活用などを検討すべきだと思います。

そこで今後の児童の増加が見込まれる放課後児童クラブの受け入れ体制など早急な対応が迫られる中、市の見解を質問しました。

### 答弁 こども企画部長

明石市ではすべての児童クラブを小学校の敷地内で実施しています。学校は放課後に児童が外に移動することなく、安心安全に過ごせる居場所で校庭など育成の環境が整っており、学校との連携も図りやすいことから、余裕教室等を活用し施設整備を行ってきました。

しかし児童クラブの利用者は年々増加しており、校区によっては児童クラブに改修する余裕教室の無い状況も生じてきています。校舎内に余裕教室の無い場合は以下の活用もしています。

・幼稚園 ・コミセン ・特別教室 ・その他の学校施設 ・敷地外の公的施設  
それでも不足する場合は**学校敷地内での専用施設の建設**を考えていきます。



### 質問 保育施設における待機児童対策の中長期計画について

平成 28 年から 3 カ年で約 3700 人の園児受け入れを確保し、令和元年度から約 2 カ年で約 2000 人の受け入れ枠の拡充の計画があると以前本会議にて答弁されました。それに伴う施設数の推移は以下の通りです。

	保育園	認定こども園	分園	小規模保育園	合計
平成 28 年 4 月時点	42	2	12	0	56
令和 3 年開園予定含む	54	18	19	25	116

急激に園数が増加しているため、令和 2 年 11 月時点で 1/3 以上の保育園・こども園で保育士が充足していない状況です。これを踏まえ明石市では、保育士サポートセンターなどをフル活用して、保育士確保の問題がクリア出来れば、間違いなく待機児童問題は改善されると言えます。そこで明石市における保育施設の中長期計画についての見解を質問しました。



### 答弁 こども企画部長

令和 2 年 4 月時点で 365 人の待機児童が発生しています。そこで、幼稚園の余裕教室に民間の保育所分園を設置するなど、今年度は 1500 人の受け入れ枠拡充に取り組んでいます。制度設計時の平成 28 年度と現在の状況は大きく異なり、今後の見込みや市立施設に対する財政負担の問題など、様々な論点に対してできるだけ早期に見当していくたいと考えています。



答弁

泉市長

このテーマはどこから物を見るかによって相当議論が違ってきます。一番何をおいても子どもファースト、子どもにとって望ましい環境が大事だと思っています。親御さんからすると安心に預けられる事です。次に働く者である保育士にとって働きがいのある職場である必要もあります。そして経営と



いう観点から施設側のニーズもあります。保育業界と幼稚園業界それぞれ公立、市立の関係があり考え方やスタンスが異なってきます。これを踏まえ行政としてはしっかりととした安定的で持続可能な制度設計をしていきたいと思っています。そして、しっかりととした専門性の高い保育士や幼稚園教諭などを見て頂く必要があり、最近では発達障害を含め、様々なより手厚い支援が要る子どももいるためしっかりと対応していきます。他方、経営的な面もしっかりと目配りしながら総合的に考えます。井藤議員の関心の高い分野であることより、しっかりとご相談しながら計画作りをしていくことを約束します。

答弁を受けて

前回に引き続き今回も意欲的な答弁を市長ならびに各部署より頂きました。明石市はこの5年間で60園の民間保育施設整備を行ってきました。これらの増園に伴う市税の負担はすでに11億円以上となっており、今後の園舎整備計画は地域や保育年齢を考慮した検討が必要であると再質問しました。これに対し、待機児童の大半が1,2歳であることから2歳児以下を対象とする小規模保育園の拡充を急ぐと再答弁されました。これを踏まえ、兵庫県の補助金や既存施設の定員を増員する弾力運用なども上手く活用し、待機児童解消に向けて一刻も早く育児の負担を支援しなくてはならないと強く要請しました。

井藤圭順は今後も教育・保育に誰よりも積極的に市政運営に携わって行くことを約束し、安心・安全な教育環境をサポートできるよう、しっかりと現場と行政をつないでまいります。

これからも『明石で育ってよかった』『明石で子育てしてよかった』とひとりでも多くの方に思ってもらえるよう、井藤圭順は強い覚悟をもって活動をしてまいります。皆様方のご支援いただきますよう、心よりお願い申し上げます。



『教育』『街づくり』『福祉』『防災』のエキスパートとして、人づくりのまち明石をめざして働いて参ります。



【井藤圭順後援会事務所】

〒673-0845 明石市太寺2丁目10-35

TEL : 078-911-4087 FAX : 078-911-3753

MAIL : [keijun@taidera.jp](mailto:keijun@taidera.jp)

ホームページ : <http://taidera.jp/keijun/>

